

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(地域医療基盤開発推進研究事業)
病院薬剤師へのタスク・シフト/シェア普及に対する阻害要因の把握と
その解決に向けた調査研究 (22IA0101)
令和4年度 分担研究報告書

「精神科薬物療法の質向上に向けた病院薬剤師の役割に関する研究」

研究分担者 黒沢 雅広 昭和大学附属烏山病院 薬局長

研究分担者 久我 弘典 国立精神・神経医療研究センター

研究要旨

精神病床では薬剤師の病棟配置は進んでおらず、精神科病院における薬剤師業務は未だ調剤業務が中心となっている。そこで新たな業務展開を見出すべく、医師の業務ニーズ調査を行うとともに、薬剤師介入とその効果を明らかにする研究を行う。

A. 研究目的

精神科における薬物療法は治療の根幹であり、薬剤師はその有効性と安全性の確保のために積極的に関与すべきであるが、精神病床において、薬剤師の病棟配置は進んでおらず、医師の処方に関連するPBPMは積極的に行われていない。精神科薬物療法の質向上に向けた病院薬剤師の新たな役割を見出すべく、医師の業務ニーズ調査を行うとともに、薬剤師介入とその効果を明らかにする研究を実施し、医師と患者が双方向に意見を述べ、合意の下に治療を実施する共同意思決定 (SDM) における薬剤師の介入等を検討することを目的とした。

B. 研究方法

- ・本調査の企画、設定、実施 (黒沢)
- ・調査項目の設定とWEB アンケートの

運用確認 (久我)

本調査は、公益社団法人 日本精神科病院協会の協力の下、2022年12月～2023年3月までの4か月間で実施した。

精神科医師に対する業務上のタスク・シフト/タスクシェア項目を把握するために行ったニーズ調査は、オンラインアンケート形式で実施した。調査項目は回答者の基本事項、各施設の規模、医師業務、業務上のウエイト、薬剤師に求めるタスク、共同意思決定 (SDM) の実施状況とした。

(倫理面への配慮)

オンラインアンケート調査は、回答者の情報を収集しない形式で実施した。

C. 結果

設定した調査期間内で合計 21 件の回答を収集した。回答者の 95.2% (20 名) は精

神科医であった。年齢は 60 代>50 代>70 代 40 代>30 代の順で多かった。電子カルテが導入されている施設は 38.1% (8 名)、処方オーダーリングシステムが導入されている施設は、47.6% (10 名) であった。医師業務の中で、時間をあてる割合が多かったのは、診療であり、次いで記録(カルテ等)、文書作成、面談、検査の順であった。薬剤師に求める処方支援ニーズとしては、患者希望に応じた調剤方法の変更が多かった。患者評価の支援については、様々な患者情報を収集して欲しいというニーズが多く見られた。同意取得支援、検査オーダー支援、処方提案に関しては、設定した質問よりも、「どれも当てはまらない」を選択した回答が多かった。

D. 考察

今回の調査結果から、医師業務のタスク・シフト/シェアを検討する際には、薬剤師視点で考えたタスクではなく、現場の医師が必要としているニーズを把握することが必要であると考えられた。医師から、「医師と連携して今までとはちがう対人業務を中心とした職種になって欲しい」という記述コメントもあったため、求められているニーズを分析し、新たな薬剤師業務を見出せる可能性がある。精度を上げるため調査規模の拡大が必要である。

E. 結論

当初の研究計画どおりに研究が進んでいる。

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし